

令和2年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大館市)

1 市の概要(人口 69,230 人)※令和3年1月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和2年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	0 園	8 園	10 か所	0 園	0 園	17 校

その他:へき地保育所7 小規模保育1 事業所内3 認可外2

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用 ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催</p> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導 ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制</p> <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成 ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進</p> <p>(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実 ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進</p> <p>(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化 ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し</p>	
年度別重点	
令和元年度	新メンバーによる指導体制を確立させ、基幹保育園以外の施設への周知を図り、訪問指導の要請、及び市主催研修会への参加を拡大していく。
令和2年度	教職員の資質向上に向けた研修会、幼保小連携体制を見直し、一層の充実を図る。
令和3年度	6年間の幼児教育センター機能の成果と課題を検証し、次年度からの指導体制や研修会の内容や運営を再構築する。

4 令和2年度の具体

目的

○大館ふるさとキャリア教育の理念のもと、どの施設においても大館の子どもが、発達に応じた質の高い教育・保育が保障される体制を、子どもに関わる全施設・学校が構築していく意識を醸成する。そのリーダーシップを教育・保育アドバイザーを中心に教育委員会と福祉部子ども課が協働体制で担っていく。

○各施設が必要に応じて、継続的に支援を受けることができる新たな基盤づくりに取り組む。

実施内容及び実施状況(中間) <成果○と今後の課題●と◇改善の方策>

(1) 教職員の資質向上に向けた市独自の研修の充実

- ・各園のニーズに応じた研修内容、若年層の保育技術向上に向けた実践的研修の見直し

① 食育研修会 (7月8日 中央公民館)

参加者：保育教諭・保育士・栄養士・調理技師 48名

内容：講話「乳幼児の食事について」

福祉部健康課 管理栄養士 佐々木ひとみ氏

感想：栄養士や調理師の方の思いにも触れる事ができ、新鮮でした。園内でのメニュー会議をして連携をしていくことが大事であると感じました。(保育士)



食育研修会 講話

② 新規採用者・2年経験者研修会 (7月13日 中央公民館)

参加者：新採用1～2年目の保育教諭・保育士 28名

内容：「乳幼児理解に基づく環境の構成と保育者の関わり」
子ども課 工藤英子

感想：写真を使っただけの分かりやすい内容で、改めて自分の保育観や行動を見直す事が出来た。保育者として何を一番に考えなければならないのか。誰のためにするのかを考える必要があることを学ぶ事が出来た。(新規採用者)

③ 発達支援セミナー (7月31日 中央公民館)

参加者：保育教諭・保育士・保育補助・サポーター 49名

内容：講話「経験と勘に頼らない指導の法則～効果のある対応には理由がある」
比内支援学校 間嶋祐樹教諭

感想：現在担当しているクラスに、切れやすい子、その子を挑発する子がいて毎日ぐったりの状態でしたので、先生のお話を聞いて良かったです。(保育教諭)

- ・子どもとの関係性が保育現場でもとても大切だと思った。まずは、子どもに「好きになってもらう」ことに重きを置いて、子どもたちと向き合っていきたい。

④ ファシリテーター研修会 (基礎編8月27日・応用編9月8日 中央公民館)

参加者：主任・保育教諭・保育士 81名

内容：講話「育みたい資質能力を視点とした子どもの見取りとSOAP型保育記録について」
秋田県教育庁北教育事務所 庄司伸子指導主事 武石郁子指導主事 日景恭子幼保指導員

感想：

- ・一人一人の遊びが学びにつながっていることを理解し、次の育ちに対しての計画を分かりやすく伝えられるようにしていきたい(課題の明確化) 様々な人の意見を求めていく大切さに気付きました。まとめることは次の課題としてまずは、意見を多く引き出すことを目指していきたい。
- ・日誌や家庭へ知らせる毎日のホワイトボードでも、SOAPを活かしていきたい。



グループ討議

⑤ 主任等研修会（9月11日 中央公民館）

参加者：主任・保育教諭・保育士 31名

内容：講話「保育の質の向上に向けた主任等の役割」
大館市立積迦内小学校長 花田一雅氏

感想：リーダーシップを学んだ後に、マシュマロチャレンジの演習をしたことで、協働しあう楽しさ、共感してもらえる嬉しさが感じられ、学んだことが心に響いてきました。



グループ演習

⑥ 保育実践研修会（10月12日 長木公民館）

参加者：新規採用者～11年目保育士、保育教諭 30名

内容：基幹保育園5園の主任による絵本の読み聞かせ、手作りおもちゃ、ハンカチ遊び手遊び、伝承遊びについて

感想：楽しい内容で温かい雰囲気だったので「保育っていいな」と感じられ、早く園に戻って保育したいと思いました。座学にはない、すぐにできる良さがありました。



伝承遊びの演習

⑦ 園長等研修会（11月20日 中央公民館）

参加者：園長・副園長等 31名

内容：講話「ふるさとキャリア教育10年～大館の子どもたちの変化～
大館市教育委員会 教育監 山本多鶴子氏

感想：大館の学校の現状を知ることができ、これからやるべきことが沢山あることを再認識した。保護者との信頼関係のもとに、円滑な教育・保育が成り立つことをこれからも心にとめたい。園児数減少が悩みですが、その割に気になる子が反比例して増えている。長い目で成長を見据え、五感を育てる保育の大切さを見直し、実践していきたい。
・子どもの将来を見据えて保育をしていくことが大切であると学んだ。子どもの就学以降の課題について、自園の保育士にも伝え、豊かな人間形成と発達理解を踏まえた保育の大切さを伝えたいと思う。

⑧ 5歳児研修会（11月24日 中央公民館）

参加者：5歳児担任・主任 32名

内容：講話「就学を見通した5歳児後半の保育、保育要録について」

秋田県教育庁北教育事務所 庄司伸子指導主事 武石郁子指導主事

感想：就学前の引継ぎを行う際、子どもの気になる面を中心に話してしまいがちだったが、育っている面、伸びてきている面を伝えることが大切だと感じた。要録の書き方について、子どもの良さを捉える目、保護者の関わり、具体的な手立てを含めた文章の記入の難しさを感じた。他園の先生方の文章にも触れることができ、自分にはない書き方や捉え方を知ることができ勉強になった。

・5歳児の担任として、子ども達の成長をしっかりと肯定的に捉えながら残り4か月、子ども達の育ちを支えられるような関わりを、今一度考えなおしていこう！と感じられた研修会となりました。要録の演習の機会を持つことができ、自分の中で不安感が軽くなりました。充実した時間をありがとうございました。

⑨ 基幹保育園主催の研修会：オーダーメイド研修

研修テーマ	講師	企画園	期日	参加人数
授業を保育に活かす テクニックについて	比内支援学校教諭	城南分園	8月18日	17人
省エネ・節約手法について	東北電力秋田県北 営業所職員	有浦保育園	9月3日	22人
レッツゴー！木育ひろば	アミュージングサポート 『遊ぶ』河田美智子	城南保育園	10月1日	27人
0～1歳の保育を考える ～愛情豊かに応答的に～	北教育事務所幼保指導員	扇田保育園	10月21日	37人
鑑賞教育エレクトーン演奏	ヤマハ音楽教室講師	たしろ保育園	10月22日	20人

- ⑩ 基幹保育園主任会議との連携による研究推進（月1回）
- ⑪ 園長会、所長会への参加、情報提供や協力要請（月1回）
- ⑫ 各小学校低学年研究授業へ参加できるように市教委から各園への通知（中止）

成果(○)：市主催の各種研修内容について、対象や目的を明確にした改善を図ったことで、参加者意識の共有や専門知識の向上につながっているのではないかと見られる。研修会の講師を外部ではなく、園長や主任等が担うことで人材育成へ主体的に関わる意識が高まりつつある。

課題(●)：研修参加者が偏りがちになる。そのため他市町村との交流がますます必要になると思われる。

方策(◇)：多様な実践を交流し、互いの刺激にするために、子ども課から他市町村へ研修案内をする。

(2) 「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導の充実、拡大

◇令和2年度アドバイザーによる巡回訪問・指導実績（大館市）

⑥派遣目標 計41施設/全54施設 101回	
回数	・幼稚園：私立1園（4回） ・保育園：公立9園（89回）、私立1園（5回） ・幼保連携型認定こども園：私立8園（38回） ・その他の施設：（へき地保育所7園（45回）児童館0か所（0回）、小規模保育施設1か所（3回）、認可外保育施設2か所（4回）、事業所内保育施設6か所（12回）、一時預かり施設1か所（2回）、病児保育施設2か所（4回）） ・小学校：17校（12回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、16園（62回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、1園（2回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、4園（25回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、9園（9回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、38園（83回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、20園（20回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、11校（12回））

理 由	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やす。
--------	--

- 成果 (○) : 信頼関係が構築されてきたことから毎月の指定訪問園や園内研修支援を要請する園が増えた。またファシリテーター研修会後からすべての園でKJ法を活用した園内研修を行うようになってきた。研修の進め方やKJ法について細かく助言しながら職員に寄り添ってきたことで、全職員で子どもを読み取ろうとする職員の変容が見られる。
- (○) : 年度末に各園の次年度の研修計画に携わったことで、早い段階から園内研修を進めることができた。

- 課題 (●) : こども園との関係づくりが難しい。
- (●) : スムーズな協議へつなげるためには、主任や研究リーダーと事前の打ち合わせをすることが有効だが、訪問にも偏りがある。

- 方策 (◇) : 基幹保育園以外の園長会、主任会への出席等連携を働きかける。
- (◇) : こども園については、特別支援教育関係者との同行など、きっかけ作りを大切にする。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

- ・教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成
- ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進
- ・質の向上へつなげるために県指導主事による要請訪問の基幹保育園園長同行
- ・専門性向上のための他園の園内研修への参加

- 成果 (○) : 研究リーダー、ミドルリーダーを中心に、全職員での研修体制が構築されてきたことで、様々な方法で園内研修の充実が見られてきた。
- (○) : コロナ感染症予防からミニ公開保育を中止にした。そこで、各園では、独自に園内のミニ公開を行い、職員間で指定クラスを見合う研修体制が増えてきた。

- 課題 (●) : 訪問時の助言等に悩むことが多い。

- 方策 (◇) : 園へ提供できる最新情報や役立つ情報を常に収集し、それらを学び助言できるようにする。

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

① 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実

- ・互いの職場体験、見学の促進 (交流中止)
- ・就学後の姿をもとに協議、育ちをフィードバック (学区毎に随時)
- ・研修対象に応じた内容の見直し (幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会中止)

② 大館市教職員夏季研修会 (7月30日 秋田職能短大)

- ・「ペアレントトレーニングを生かしたティーチャーズトレーニング」

講師 : 大館市子ども課 巡回支援専門員 畠山佳子氏

参加者 : 幼保小中 87名

感想 : 子育てに悩んでいる家庭があるので、ぜひ、ペアトレを勧めたい。どうしたら、構えずに足を運んでもらえるのか悩んでいる。

- ・「不登校や発達障害のある子どもへの相談支援と保護者対応について」

講師 : 秋田大学教育文化学部 教授 柴田 健氏

参加者 : 幼保小中 104名

感想 : 友達同士の関係づくり、その家族との関係性など、社会生活の中での支えがどうあればよいか難しいと感じている。

③ 学区の合同研修 : 小学校の指定訪問への参加、園の外部評価への小学校教員の参観 (中止)

④ 市教職員研究実践発表会 (令和3年1月8日 中央公民館)

<p>成果 (○) : 研修会が中止になっても今までの積み重ねがあるからこそ、幼保と小学校の連携が図られている。感染防止に努めながら、お互いに授業や保育を見合ってスムーズな接続へと連携している小学校・園も多い。</p> <p>(○) : 保育や授業実践の紹介により、保育者、教員がお互いの子どもの発達過程や指導内容、指導の工夫等を理解し合うことにつながっている。</p> <p>課題 (●) : 小学校と園との連携は学区によって温度差がある。</p> <p>(●) : 幼保小連携だよりの発行により「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をより意識した記事の工夫と、各園・各小学校での活用を周知する。</p> <p>方策 (◇) : 幼保小連携だよりを定期的な発行を目指し、年度初めの校長会、園長会等で周知する。</p> <p>(◇) : 幼保小連携の研修会が市独自開催となることを機に、研修内容・開催時期を再検討する。</p> <p>(5) 「県との連携体制の充実」秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行 ・北教育事務所指導主事等との打合会の開催 (年3回) <p>成果 (○) : 県の指導主事と一緒に要請訪問への同行させていただくことで、保育の見方、指導助言を共有することができた。</p> <p>(○) : 教育・保育アドバイザーの資質向上に有効な機会となっている。</p> <p>(○) : 他市の教育・保育アドバイザーとの情報交換が事業や研修のPDCAに生かされている。</p> <p>課題 (●) : 研究協議と指導助言の時間のバランスを調整し、市としての立場を明確にして訪問する。</p> <p>方策 (◇) : 県の指導主事による指導内容と、市のアドバイザーによる助言の役割分担を明確にするため、事前の打合せをしっかりと行う。</p>
--

5 令和3年度の事業の構想

<p>目的</p> <p>○大館ふるさとキャリア教育の理念のもと、どの施設においても大館の子どもが、発達に応じた質の高い教育・保育が保障される体制を、子どもに関わる全施設・学校が構築していく意識を醸成する。そのリーダーシップを教育・保育アドバイザーを中心に教育委員会と福祉部子ども課が協働体制で担っていく。(就学前全施設の教育・保育の質向上と小学校への円滑な接続の強化)</p> <p>○各施設が必要に応じて、継続的に支援を受けることができる新たな基盤づくりに取り組む。</p>
<p>実施内容</p> <p>(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催 ・資質向上を図るための他地域との合同研修会、公開保育視察交流 ・小学校における連携アドバイザーの活用促進 <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制 <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進 <p>(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進

(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化

- ・ 県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加
- ・ 最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し